

人夫が、國粹會式精神より自發的に飛込めるものとされたるが造船工作部係長山川技師が片福組に對し暴行用の鐵棍を貸與せるは明かなる事實なりと言はる。

青標隊の襲撃に憤慨したる本社電氣工作部整理委員十名は直に本社に出頭永留重役に對して傷害事件の責任に就きて訊すところあり。同重役は「青標隊は本社の委嘱して組織したもので無く、片福組が之に加はつたと伝えられるが同組も單にペンキ請負から出入するもので此の事あるを豫知して本社が依頼したもので無い。詳細は追つて調査するが負傷職工は本社の手依つて夫々手當する」と回答したり。一方椿事發生と共に工作部職工三輪、淺司外一名は即刻相生橋署に出頭「暴漢數十名が棍棒を携へて入場し職工等を殴打負傷せしめたるのみか匕首を揮ひて四名に重傷を負はせたる」旨を陳情し即時出張保護方を依頼せる折しも會社側より亦電話を以て「暴動發生し職工中委員十名に附隨せる三百名の一隊が事務所に亂入したり」と急報し來れるため遠藤同署長は大西、谷口兩警部、金子、阪、岡村警部補を伴ひ七十餘名より成る警官隊を引率して現場に急行鎮壓に努めたる結果同三時半漸く鎮靜せしめ、一方匕首を揮ひて職工を傷つけたる壯漢の行衛を嚴探する外棍棒等の證據蒐集を行へりやがて職工等の退出時間となりしたため相生橋署の警官隊は此の騷擾を聽きて集まる群衆を整理しつゝ、職工の靜肅退場を求めたるが興奮せる數千の職工は聲高らかに労働歌を唱へつゝ退場、一部は歸宅し一部は殆ど隊列を作りて湊川勸業館の聯合労働演說會場に赴けり。

兵庫工場の狀勢

別働隊格なる兵庫分工場鑄鋼科にては出勤時間に平素の如く入場せんとしたる職首委員行政、柴田(富)、阿部三名が門前にて守衛に食ひ止められ「自分等は職首されても二週間労働し得る権利があるから入場する」「イヤ會社の命令で入場は許されぬ」と押問答の末結局守衛長より「入場を拒んだ」との證明書を徴して引取れるを皮切に忽ち場内混亂し同工場全部千餘名は我も〜と早退の届を出して七時半より八時迄の間に退場し労働歌を高唱しつゝ先づ明治通の明和俱樂部に集合協議の上再び分工場へ引返し場内に示威運動を試み起し工場にて晝食後、兵庫分監跡に隊伍を整へ三菱造船附近に向へるため三菱側にては守衛全部と出張警官並に水兵を以て正門を固め万一に備へたるが、分工場職工は門前に喊聲を擧げたるのみにて間も無く引揚げ川崎造船所に向ひ内外呼應して氣勢を揚げ午後二時半湊川勸業館に到着、斯くて同館會場の戸を締め切り直に不當解僱報告演說會に移り終了、代表委員は別室に秘密會を開き今後の方針に就き鳩首協議の結果、工場各組より三名宛合計百餘名の實行委員を選出し罷業團を作り罷業本部を明和俱樂部に置き八日より斷然罷業を決行、實行委員は職工の罷業勸誘並に工場門前に張番して出勤職工の喰止めに努める事を決議し四時散會せり。

組合聯合團演說會

更に同日午後六時より勸業館に於て労働組合聯合團演說會開催尾川林藏(電正會職首者)司會の下に演說あり、久留弘三氏は組合確認の問題を提げ川崎、三菱、製鋼所等と交渉し拒絶されし顛末を報告し「資本家は我々正理のある所を認めて呉れぬ」と憤慨演說を爲し續いて賀川